

令和7年度 第1回 公社等運営評価委員会 議事要旨

1 日 時

令和7年9月17日（水）13:30～15:30

2 場 所

兵庫県庁1号館2階会議室

3 出席者

- (1) 委員
北村委員長、鬼頭委員、酒井委員、長沼委員、羽田委員、藤本委員
- (2) 兵庫県
財務部長、財務部次長、県政改革課長、資金管理官、防災支援課長

4 議 題

- (1) 今後の委員会の進め方について
- (2) 公社等のあり方見直しの進捗状況について
 - ・各公社等のあり方見直しの進捗状況
 - ・兵庫県住宅再建共済制度（フェニックス共済）のあり方の検討
- (3) 令和6年度における各公社等の運営状況について
- (4) 公社等の資金運用に関する報告について

5 発言要旨（主なもの）

○兵庫県住宅再建共済制度（フェニックス共済）のあり方の検討

- ・制度を存続する場合は、早めに周知するべき。
- ・財政的リスクについて、継続的に評価するべきであり、事務負担等のバランスも考慮しながら進めてほしい。
- ・制度の存続等について、南海トラフへの備えとして加入している人もいることなど、考慮してほしい。
- ・過去の委員会でも述べたが、（制度を存続する場合）PRをしっかりと行い加入率を上げることが必要である。
- ・地震保険とセットで加入することで、より安心につながるので、より良い制度にしてほしい。
- ・県の財政負担が増えるから、制度を見直すように捉えられないように、理念が伝わるような発信が必要ではないか。
- ・制度の変更にあたっては、加入者が制度をどのくらい理解しているかが重要であり、後々にトラブルにならないように、注意が必要である。加入者への説明義務をきちんと果たし、理解を得たうえで加入していただくようにしてほしい。
- ・次回の委員会で、住宅再建共済制度の最終報告のとりまとめ資料等について、ご提供いただきたい。

○令和6年度における各公社等の運営状況について

- ・公社等の評価として、定量的な評価（数字での評価）と定性的な評価（数字以外での評価）があり、数字のみで判断すると収益が赤字であると良くないと評価をすることになると思われるが、公社等のそもそものあり方や理念を考えると、民間ではできない事業や公共性のある事業を行っているのであれば、定量的な評価のみならず、定性的な評価も行なうことが重要である。理念通りに事業が行われているか、という視点での点検も必要ではないか。
- ・今後、公社等の評価を行う際、フローチャート等の評価軸を作っていく必要がある。公益性・有効性・効率性・経済性等の軸で点検を行うことができれば良いのではないか。

○公社等の資金運用に関する報告について

- ・国債等の安全資産であっても、超低金利時に購入したものは評価損が発生していることも考えられる。現在は金利も上昇してきており、その時々のタイミングで考えていくべきではないか。
- ・資金運用においては、属人的にならないように責任の所在を明確にすることが重要である。各団体での判断も必要であるが、運用実態や市場環境に応じた県の支援が引き続き必要である。